

酷暑や突発的な豪雨など相変わらず天候不順。備えて豊作を目指そう。

昭和肥料ニュース

FAX版



Vol. 058

今年は梅雨入りが遅れているようです。また、各地で30℃超えの便りが聞かれ「想定通りの暑い夏」になりそうです。作物の暑さ対策は万全でしょうか？

地上部はコンパクト、地下部が発達。暑さに備える生育に！

先日、弊社の土づくり資材の新規使用先様で圃場調査を行いました。作物は水稲（コシヒカリ）で、高温障害対策に弊社の得意とする「ケイ酸」「微量元素」の効果を試してみたいとの試験案件です。

調査したところ葉令6.5の段階で、草丈は10%程度低め、茎数は20%程度増、葉色は10%程度薄いことが観察されました。平均的な代表株の掘り取り観察を行うと根の量が明らかに多いことが観察されました。

ケイ酸は株をガッチリさせ、光合成能力を高めることが知られており、それを実証できた結果でした。まだ分けつ中の時期ですので、今後も継続的な観察が必要ですが、「根が深く暑さに強い稲姿」に育っておりこれからは楽しみな生育進捗でした。今後も肥培管理を適切に行い、豊作を向かえて欲しいと思います。

害虫が多い年 肥料のやり方にも注意して

今年は全国的にカメムシの大発生が問題となっています。作物を狙ってくる害虫を肥料でやっつけることは出来ませんが、害虫に狙われにくくするために

- ①窒素は、ドカッとやり過ぎない（小まめな追肥が◎、ドカやりは×）
- ②微量元素（鉄、マンガン、亜鉛、銅）を切らさない
- ③カルシウム、ケイ酸を多めに与える などがオススメです。

微量元素のある土壌で育てた作物は、窒素栄養を素早く代謝しタンパク質に出ると言われます。代謝が遅いと害虫が好む未消化窒素やアミノ酸が蓄積し害虫から見て「美味そう」な状態になるそうです。そのため窒素はやや少なめに管理するよう心掛けると良いでしょう。（少なすぎると猛暑でバテ易くなるので、下葉が黄化しない程度は与えるのが理想です）

【ひかりゴールドF】



ケイ酸、微量元素主体の土づくり資材

水稲、野菜問わず使え、これからの時期は秋冬野菜の土づくりに人気です。補給しにくい微量元素の補給を土づくりとセットで行えます。

また、カルシウム、ケイ酸は作物自体を強くするので害虫、病気への抵抗力の底上げに役立ちます。適期防除や各資材使用と併せて肥料のやり方も工夫してみてください。

弊社製品を使うことで「害虫からの被害が軽減された」との事例があれば調査に伺いますので情報お寄せください（なぜか、ネギのアザミウマ害や、水稲のカメムシ害が少なかったなどの事例あり、理由は解明中… 情報求む！）